

【基本的な考え方】

- 本年秋冬については、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の感染拡大期の同時到来の可能性
- 発熱患者・陽性者・自宅療養者が大幅に増加するとともにクラスター対策等保健所業務が逼迫する恐れがある。
- 死亡者を減らすため、高齢者施設等のクラスター対策や重症者、ハイリスク者への対応など、保健所が専門性を発揮できるよう、感染拡大の状況に応じて、さらなる業務の重点化、効率化、他機関との役割分担を進める。

	①電話相談 及び検査・受診調整	②検査結果通知	③入院等療養調整	④病状把握
現 行 業 務	【保健所実施】 ○帰国者・接触者外来受診調整 ○ドライブスルー検査受診調整 【業務委託】 ○新型コロナ受診相談センター	【保健所実施】 ○検査結果電話連絡 (保健所検査調整分) ○発生届受理	【保健所実施】 ○全陽性者の療養方法決定・ 伝達(入院・宿泊・自宅療養) 【業務一元化】 ○入院フォローアップセンター ○宿泊調整チーム	【保健所実施】 ○全陽性者の病状把握 (入院・宿泊・自宅療養) 【ICT活用】 ○システム(kintone)、アプリに よる病状把握
方 向 性	【役割分担】 ○診療・検査医療機関との役割 分担	【効率化】 ○陰性結果通知のICT化 (保健所検査調整分) ○HER-SYS入力の促進	【効率化】 ○診療・検査医療機関で陽性者 に療養上(待機中を含む)の注 意事項を記載した文書を手交	【重点化】 ○自宅療養者の病状把握は受動 的対応を基本 ○病状把握はHER-SYSへ順次移 行
	⑤積極的疫学調査	⑥クラスター対応	⑦濃厚接触者の対応	⑧検疫・COCOA対応
現 行 業 務	【保健所】 ○全陽性者について、国実施要領 に基づく詳細な調査を実施	【保健所】 ○感染状況に応じた段階的検 査の実施 【業務支援】 ○院内感染対策支援チーム ○クラスター班	【保健所】 ○全対象者に健康観察と検査 を実施 【業務一元化】 ○濃厚接触者フォローアップ センター (府保健所・大阪市保健所)	【保健所】 ○健康観察(中核市)、検体回収 【業務一元化】 ○検疫フォローアップセンター (府保健所・大阪市保健所) ○大阪府COCOA接触者センター (府保健所)
方 向 性	【重点化】 ○クラスター発生リスクの高い 施設等の調査を重点的に実施	【重点化】 ○クラスター発生初期段階か ら積極的検査等対応強化	【重点化】 ○ハイリスク者へ重点化 ○濃厚接触者の検査機会充実	【業務一元化】 ○業務一元化を拡大 ○対象者の検査機会の充実

※「現行業務」の太字は既に見直しを図り継続しているもの、「方向性」の太字は今後重点化等を図るもの

感染拡大期に備えた相談・受診体制の充実について

- 相談対応について、現在の保健所(新型コロナ受診相談センター)に加え、かかりつけ医等地域で身近な医療機関を追加する。
- 相談する医療機関に迷う場合等の相談対応は、引き続き、保健所(受診・相談センター)が担う。

現状

秋冬のインフルエンザ流行期 ・ 感染拡大期

【①電話相談及び検査・受診調整】

(1) 発熱等有症状者の相談対応

- ① 保健所(新型コロナ受診相談センター)へ電話相談(外部委託)

【コールセンター(外部委託)】

- ・有症状者からの電話相談対応
- ・疑い例は、保健所へ引き継ぐ

【保健所】

- ・コールセンターからの引き継ぎ対応
- ・有症状者からの電話相談対応
(※直接電話がかかってきた場合)

① かかりつけ医等の身近な医療機関へ電話相談

- ・発熱等の症状を生じたかかりつけ医を持つ患者等が、かかりつけ医等の地域の身近な医療機関に電話等で相談
⇒「診療・検査医療機関(当該医療機関を含む)」を案内

② 保健所(受診・相談センター(仮称))へ電話相談

- ・特に、かかりつけ医を持たない、相談する医療機関に迷う、夜間・休日などは「保健所(受診・相談センター(仮))」へ電話相談
- 【コールセンター(外部委託)】
 - ・「診療・検査医療機関」を案内
- 【保健所】(※直接電話がかかってきた場合)
 - ・有症状者からの電話相談対応

課題

- ・相談先の公表・周知
- ・診療・検査フローの徹底
- ・診療・検査医療機関の確保
- ・受診・検査基準の統一化

(2) 疑い例の場合の受診調整

① 保健所の受診調整

- ・コールセンターから引き継ぎを受けた保健所がスクリーニングを行い、疑い例は「帰国者・接触者外来」等につなぐ

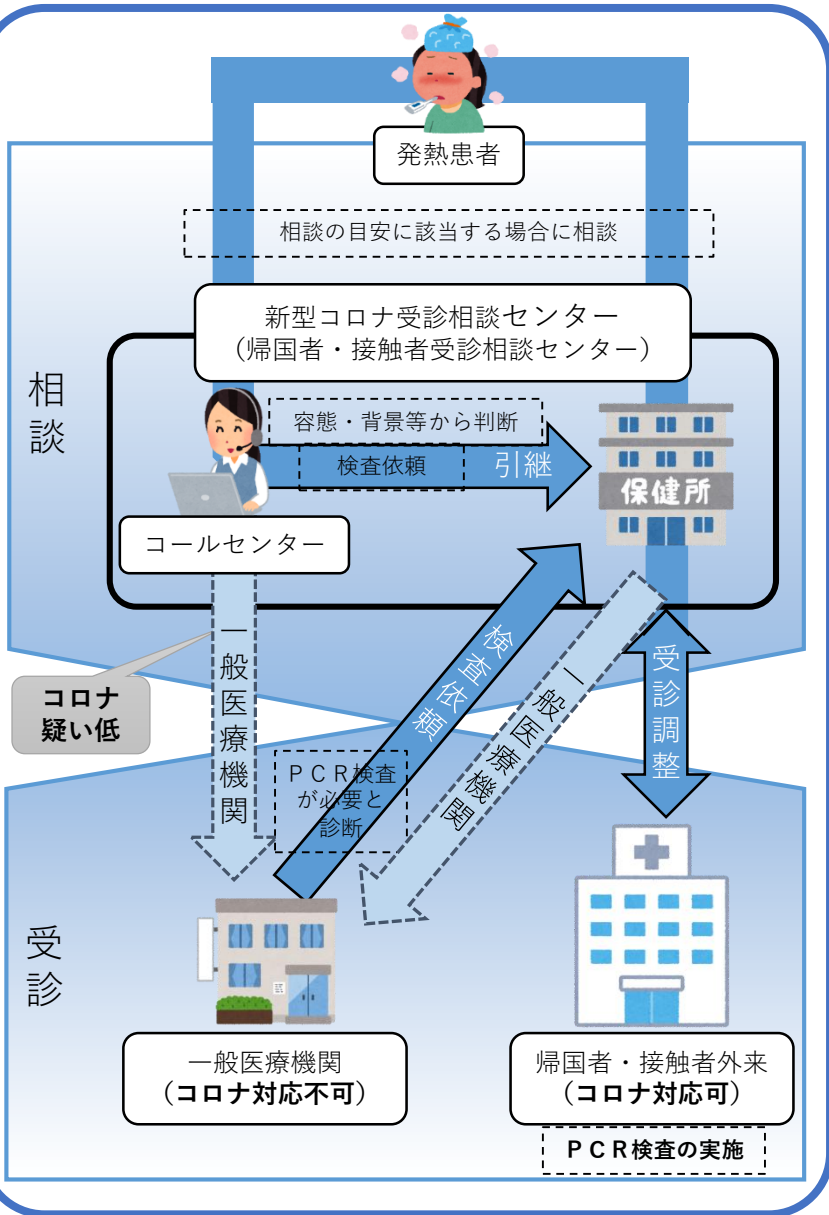
① 保健所を介さず、診療可能な医療機関を案内

- ・かかりつけ医等が「診療・検査医療機関(当該医療機関を含む)」を直接案内
- ・受診・相談センター(仮称)【コールセンター】は、土日祝日・夜間を含み、保健所を介することなく直接受診先を案内

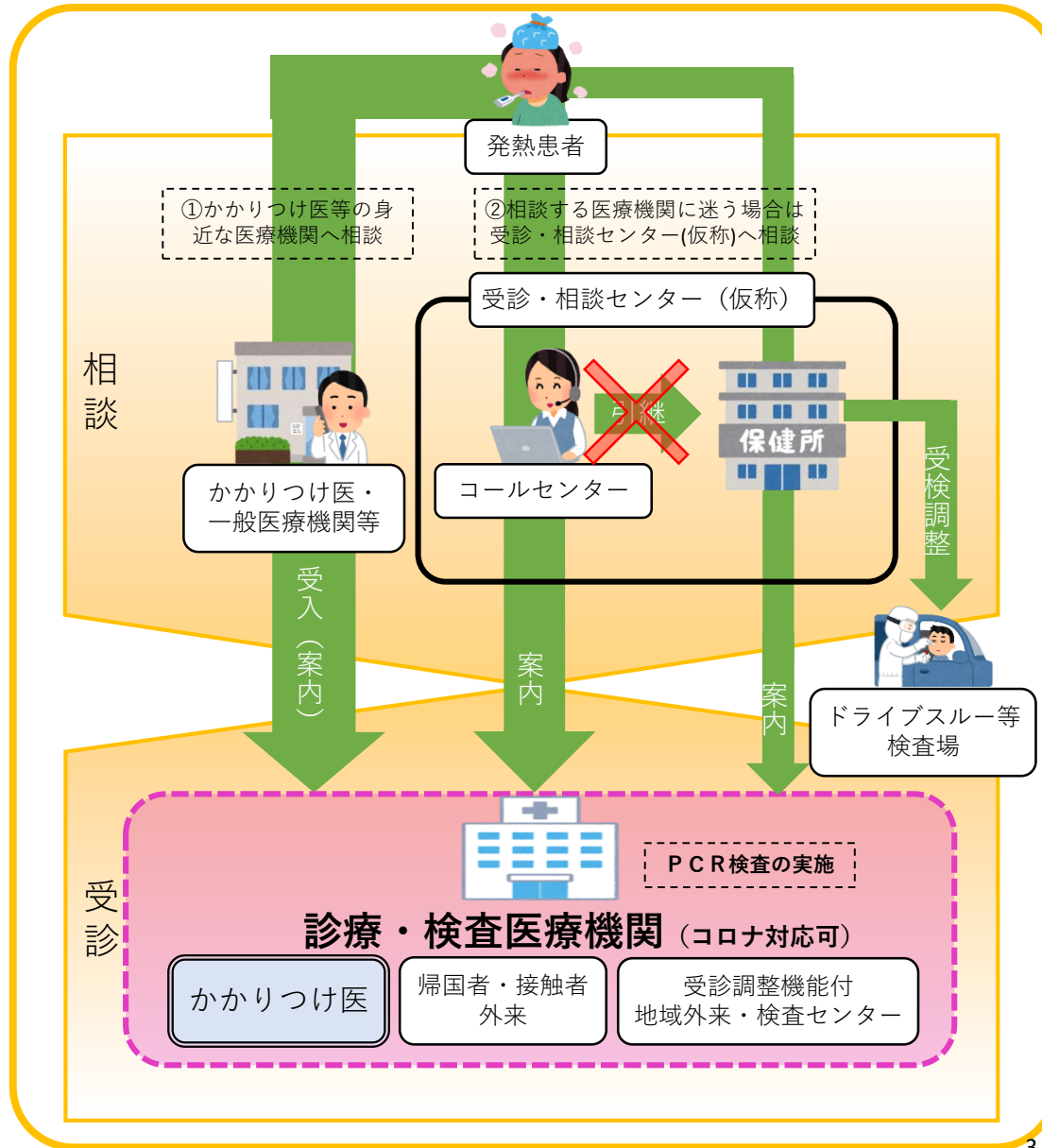
課題

- ・診療・検査医療機関の確保

現状



秋冬のインフルエンザ流行・感染拡大期



感染拡大期に備えた保健所の業務の方向性について

現状

秋冬のインフルエンザ流行期 ・ 感染拡大期

【②検査結果通知】

結果連絡

- 保健所実施分は、保健所から陽性、陰性ともに電話で本人に連絡

発生届の受理

- 医療機関からFAXで受理

結果連絡の効率化

- 保健所からの陰性者への結果連絡をICT化し効率化

システム活用による届出の効率化

- 医療機関にHER-SYS入力による届出を促進
(システムに対応できない場合は従来通り)

効率化

【③入院等療養調整】

陽性者への説明と療養方法の決定

- 保健所が検査結果通知とともに陽性者の療養方法を決定(入院・宿泊・自宅療養)

診療・検査医療機関における検査結果通知と療養上の注意の伝達

- 診療・検査医療機関から検査結果通知とあわせて、陽性者には療養上(待機中含む)の注意事項を記載した文書を手交

効率化

課題

- 診療・検査医療機関との調整

【④病状把握】

全陽性者の病状把握

- 入院・宿泊は療養先からの情報を確認
- 自宅療養は電話やアプリで状況を確認

陽性者の病状把握は重症化リスクの高い者に重点化

- ハイリスク者以外の自宅療養者に対する病状把握は受動的対応を基本とする

重点化

課題

- 急変時や連絡がつかない場合のフォローアップ体制の整備
- 自宅療養者に対する支援強化

【⑤積極的疫学調査】

- 国要領に基づく詳細な調査を実施

- クラスター発生リスクの高い施設やハイリスク者との接触歴等の調査は重点的に実施

- 全陽性者に対する積極的疫学調査は引き続き実施し、濃厚接触者を特定

重点化

【⑥クラスター対応】

- 感染状況に応じた段階的検査実施

- クラスター発生初期段階から積極的検査等対応強化
- 施設内クラスターの教訓を関係者及び関係機関と共有

重点化

課題

- 保健所への応援体制整備

感染拡大期に備えた保健所の業務の方向性について

現状

秋冬のインフルエンザ流行期 ・ 感染拡大期

【⑦濃厚接触者の対応】

検査・健康観察

- 全濃厚接触者に検査と健康観察を実施

検査・健康観察

- 保健所の能動的対応はハイリスク者に重点化
- 濃厚接触者全体の検査が円滑に実施できる体制の整備を検討

重点化

課題

- 検査受検体制の整備

【⑧検疫・COCOA(接触確認アプリ)対応】

検疫フォローアップ

(帰国者に対する健康観察)

- 検疫フォローアップセンター設置
(府保健所・大阪市保健所管轄分)
により、電話やアプリ等により能動的
に実施

検疫フォローアップ

- 検疫フォローアップセンター業務を継続。
- 症状出現があれば連絡をもらう受動型へ移行

業務一元化

課題

- 国(検疫法)との調整
- 大阪市以外の政令市
中核市管轄分につい
ての対応

COCOA(接触確認アプリ)対応

- 大阪府COCOA接触者センター
設置(府保健所管轄分)により、
検査希望者を受付
- 保健所にて検体回収・検査

COCOA(接触確認アプリ)対応

- 保健所を介さずに検体回収・検査が実施できるよう業務を
外部委託

- 政令市中核市管轄分
についての対応

患者情報等管理の国システムへの移行に伴う大阪モデル等公表データへの影響

方針

- インフルエンザ流行期に備えた体制整備の一環として、11月を目途に、患者情報等管理システムを以下のとおり移行予定。
府独自の「新型コロナウイルス対応状況管理システム」(kintone)
⇒国システム「新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(HER-SYS)」
及び「新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)」

【システム移行の背景】

- 国より、HER-SYS及びG-MISの積極的利用の推奨
- kintone、HER-SYS及びG-MISの3システム併用による患者情報管理の複雑化。
- 都道府県から指定を受けた診療・検査医療機関は、HER-SYS及びG-MISに必要な情報を入力(国の補助金要件)。

課題

- システム移行に伴う保健所等の入力状況。
- 報道提供や大阪モデル等の公表データと同レベルでの情報把握が可能かの検討。(例:陽性率など)

<参考>大阪モデルの指標

- ①新規陽性者における感染経路不明者数7日間移動平均前週増加比
- ②新規陽性者における感染経路不明者数7日間移動平均
- ③7日間合計新規陽性者数(うち後半3日間)
- ④直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数
- ⑤患者受入重症病床使用率

- (参考指標)
- ・新規陽性者における感染経路不明者の割合
 - ・確定診断検査における陽性率の7日間移動平均
 - ・患者受入軽症中等症病床使用率
 - ・患者受入宿泊療養施設部屋数使用率

※国分科会指標は、大阪モデルと同様の指標に加え、「人口10万人あたりの全療養者数」を指標として設定

<参考>患者の発生状況の報道提供の項目

- 【概要】①陽性者数(クラスター、感染経路不明者、濃厚接触者等)
②検査実施件数(PCR、抗原検査別)・陽性率
③クラスター発生状況
④患者の状況(入院・療養状況、死亡、重症等)
- 【個票】⑤年代、性別、居住地、同居家族の有無、職業、発症日、症状、濃厚接触者、特記事項
- 【その他】⑥市町村別陽性者発生状況(前日分)

対応

- 十分なシステム移行期間設定や保健所等による確実なシステム入力の徹底。
- 大阪モデル等のデータ公表において、国システムでは従来と同レベルの内容把握が困難な場合、代替データの把握手法の検討。